

草木のどこで染める?

葉や枝、樹皮、実のほか、花弁、根、虫こぶなどを煮出して染液をつくります。アカマツの場合、青い実では赤茶色に染まりましたが枝葉では赤味は出ませんでした。



布の素材・染液を煮出す回数による色のちがい

布の素材（麻、木綿、絹）による染まる色の違い、また何回煮出した染液かによる違いをソヨゴ（葉）を染材として見てみました。その結果、今回は、一度煮出した染液を1週間ほど置いた3番染、4番染の、特に絹の布が最も色濃く染まりました。

▼布の素材による色の違い

1週間置いた3・4番染液（合わせたもの）で染め、灰汁媒染したもの



※どの布にも謫染処理はしていない

きのこ染

くち木を分解するきのこロクショウガサレキンを使って絹を染めてみました。



緑色の部分が菌糸
※キノコ染めの染色手順は本号に記載のものとは大きく異なります

謝辞

草木染指導および染め実験のご協力、本企画立案のきっかけをいただいた中村美喜子さん、染め実験および本号掲載の染め作業をビジャーセンター職員とともに行ってくださった望月葉子さんの両氏に深く感謝を申上げます。

泥染

泥に含まれる金属成分を媒染に使用します。アカメガシワで染めた布を、園内の水辺・湿地の泥を使って媒染してみました。



ビジャーセンター バードピア浜北

自然情報の発信、自然体験プログラムなどを通じて、静岡県立森林公園の自然の魅力を発信しています。

- 入館料：無料
- 開館時間：9:00～16:30
- 休館日：毎週水曜（祝日の場合は翌日）と年末年始（12/29～1/3）

木工体験館

- 気軽に木工作を楽しむことができます。工具はそろっているので、手ぶらでお立ち寄りください。
- 木工作：金・土・日
 - 開館時間：9:00～16:30 初回利用時に「初心者利用講習」受講が必要です。
 - 休館日：月・火・水と年末年始（12/29～1/3）
 - 問合せ：☎ 053-583-1559

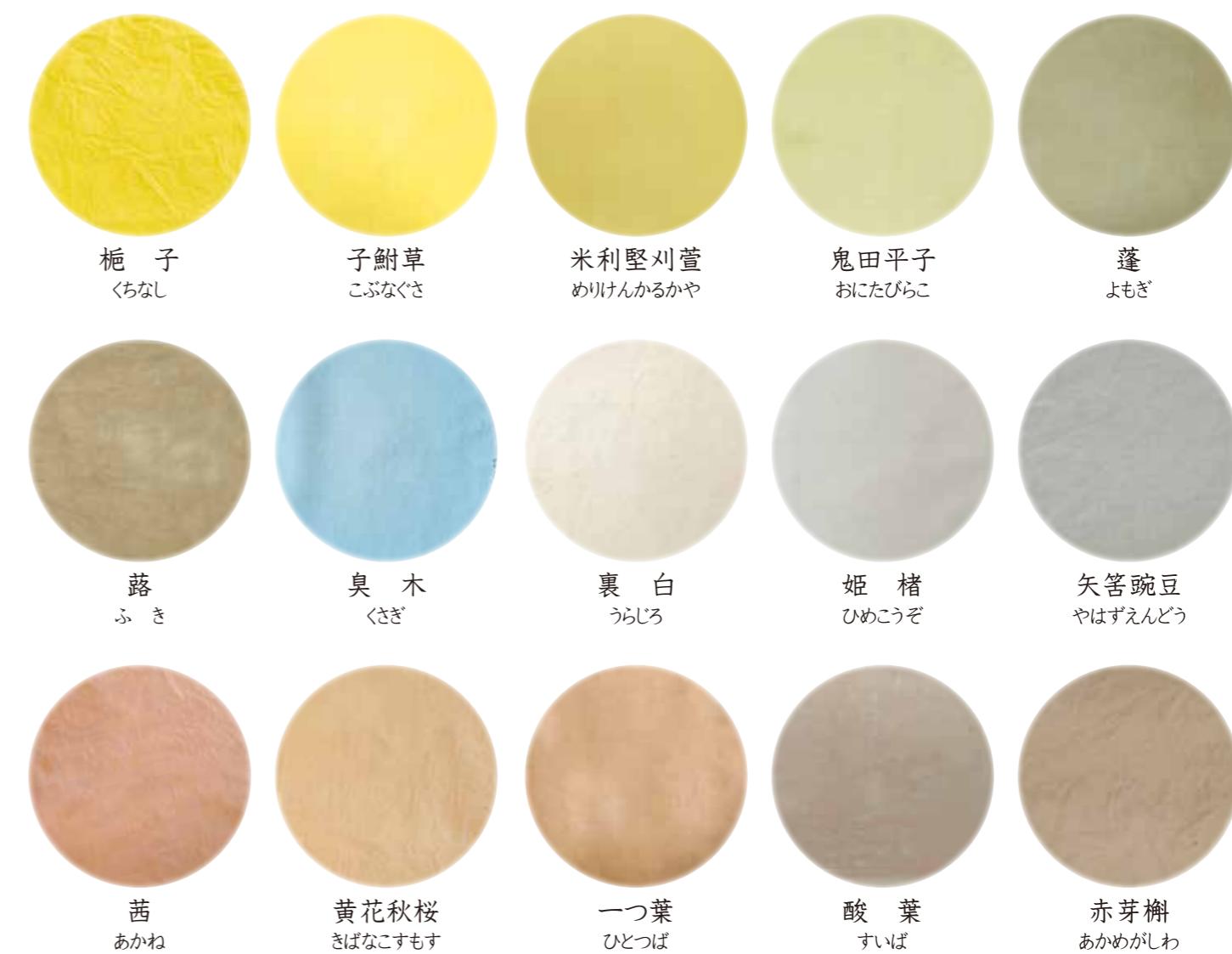


ムササビだより

草木染の色は、種ごとに染まる色調に傾向はあるものの、チュー
ブから出す絵の具のように、いつも同じ色になるとは限りません。染
液を煮出す時間や染めるものの素
材・下処理方法、媒染の種類によ
て異なるのはもちろんのこと、植物
を集める時期によっても色に違いが
出るとも言われます。

森林公園の管理作業で出た草木
を染めたらば、草木の個性がひと
つひとつに現れ、それが調和す
るとても穏やかな森の姿がうかび
あがりました。

とても穏やかな
森の調和がうまれました



梔子

Gardenia jasminoides
アカネ科クチナシ属 クチナシ

■染材：実。鮮やかで赤味のある辛子色に染まる。カロチノイド系の色素。栗きんとんや沢庵の着色に用いられてきた。
■常緑低木。果実が開かないで口無。花は芳香がある。オオスカシバという蛾の幼虫が葉を食べる。



子鮒草

Arthraxon hispidus Mak
イネ科コブナグサ属 コブナグサ

■染材：全草。八丈刈安とも呼ばれる（八丈島の黄八丈は本種で染めたもの）。カリヤスとも言うが、奈良時代から染料とされてきた「カリヤス（イネ科ススキ属）」とは別種。
■1年草。葉は鮒のような形で茎を抱くのが特徴。



鬼田平子

Youngia japonica
キク科オニタビラコ属 オニタビラコ

■染材：花付きの全草。淡い黄色に染まった。
■1年草・越年草。管理道沿いなど陽当たりの良い場所で一年中見られる。頭花は直径7~8ミリでコオニタビラコより小さい。茎や葉を切ると白い汁が出る。白い冠毛がそう果にある。



蓬

Artemisia indica var. maximowiczii
キク科ヨモギ属 ヨモギ

■染材：全草。4月初旬の葉を使用した。しつかり黄色味のあるカーキ色に染まった。
■多年草。舌状花は無く、筒状花が集まって下向きにつく。風媒花。葉に芳香がある。葉はヨモギ餅、葉裏の綿毛は、もぐさに利用される。



蕗

Petasites japonicus
キク科フキ属 フキ

■染材：葉。4月中旬頃の葉と茎を使用した。ベージュ色に染まった。
■多年草。地下茎で増え、群落をつくる。雌雄異株。筒状花のみ。雄株の花は黄色っぽく、雌株の花は白っぽい。新芽と葉柄は食用となる。



臭木

Clerodendrum trichotomum
シソ科クサギ属 クサギ

■染材：実。えんじ色の萼を除き、実だけを使用した。
無媒染でも鮮やかな水色（縹色）に染まる。古来から実は染料とされてきた。
■落葉小高木。花は芳香でアゲハチョウ類を呼ぶ。葉はもむと胡麻和えのような匂いがする。



姫楮

Broussonetia kazinoki
クワ科コウソ属 ヒメコウソ

■染材：葉。11月の葉を使用。淡いベージュに染まった。
■落葉低木。雌雄同株。実は甘いが、口当たりが悪い。紙の原料にするコウソはヒメコウソとカジノキの交雑種。葉痕が隆起し枝に密着する三角形の冬芽が特徴。



矢筈豌豆

Vicia sativa subsp. nigra
マメ科ソラマメ属 ヤハスエンドウ

■染材：全草。4月上旬の葉と花を使用。淡いオリーブ色に染まった。
■つる性2年草。別名カラスノエンドウ。托葉の蜜腺にアリが来る。黒く熟した豆果は、鞘が弾け種子が飛ぶ。葉は偶数羽状複葉で先端は巻きひげになっている。



茜

Rubia argyi
アカネ科アカネ属 アカネ

■染材：根。夕焼け色に染まる。日本最初の国旗（日の丸）は「筑前茜染」で染められた。何回も染め重ね濃い色にする。
■つる性多年草。根が赤いことから「赤根」と呼ばれる。園内では各所でみられる。



裏白

Gleichenia japonica
ウラジロ科ウラジロ属 ウラジロ

■染材：全草。11月の葉を使用した。淡いベージュに染まった。
■常緑性のシダ。園内で最もよく見られる大型のシダ。一对の羽片の付け根に毎年新芽ができる生長する。大きな群落をつくる。正月飾りに使われる。



酸葉

Rumex acetosa
タデ科スイバ属 スイバ

■染材：5月の全草を使用。淡いベージュに染まった。
■多年草。雌雄異株。雄花は風で花粉を大量に飛ばす。雌しべは赤い房状の柱頭を持つ。実は翼があり風散布。茎や葉に酸の一種、シウ酸を含む。



赤芽槲

Mallotus japonicus
トウダイグサ科アカメガシワ属 アカメガシワ

■染材：枝。2月の枝を使用した。アルミ媒染は明るいベージュ、鉄媒染は紫味のあるシックなグレーに染まった。万葉の時代から黒の染料（鉄媒染）とされてきた。
■落葉高木。新芽が赤い。雌雄別株。花に花弁はない。葉は食器代わりに使用された。



●染めた布 < 線 100%>
布は事前に濃染処理（水に浸しておいた布を、豆乳または柔軟剤を水で解いた液に浸す）。
(豆) : 市販の無調整豆乳で濃染処理
(柔) : 市販の柔軟剤で濃染処理

●布の重さと同量の重さの染材を使用
■染材：植物のどの部分を染めに使用したかを記載

<染めの工程> 実施した基本的な手順は次の通り。
① 染材を水から火にかけ、沸騰後20分以上煮出す。
② 濃染処理した布を染液に入れ弱火で煮る（20分程度）。
③ 媒染剤（アルミ・灰汁・鉄）に浸ける（10~20分程度）。
④ 水洗いして乾かす。
①~④を基本の手順としたが、染まり具合により、②~③を繰り返し染めた。

一つ葉

Pyrrhia lingua
ウラボシ科ヒトツバ属 ヒトツバ

■染材：葉。煮出すと染液に淡褐色の毛が多数浮いた。赤味強めの茶色に染まった。
■常緑性シダ。単葉。乾燥に強い。園内では地面から露出した岩の上などで根茎を長く這い、群生する。葉裏には星状毛が密生する。葉は2形で胞子葉のほうが細長い。



黄花秋桜

Cosmos sulphureus
キク科コスモス属 キバナコスモス

■染材：花弁。花弁のみを集めて使用した。花弁の色を彷彿とさせるオレンジ味のある色が出た。鉄媒染も柔らかい印象のグレーとなつた。
■メキシコ原産。大正時代に観賞用に持ち込まれた。



米利堅刈萱

Andropogon virginicus
イネ科メリケンカルカヤ属 メリケンカルカヤ

■染材：全草。とても鮮やかな黄色に染まる。
■多年草。北米原産。園内各所に見られる。葉鞘は扁平で明確な竜骨がある。鞘状の総苞から長白毛が見えるのが特徴。葉腋の白い穂は風に乗りよく飛ぶ。

